

# 承認工事\_検査チェックリスト

(検査に必要な巻尺や鏡等の器具と、マンホール中心の位置は施工業者で準備すること)

別	チェック項目 (判断に迷う場合は写真等で記録を取り、事務所へ持ち帰ること)	検査種別	再施工指示	チェック欄
↓ 本検査を同時に行うかどうかの判断セル	<b>取付管新設</b>			
	公共樹と水道メーター箱の外々の離隔が30cm以上取れているか。 取れていない場合、ヒアリングを行い、協議した記録をメモに残すこと。	下検査	要判断	
	図面数値の確認 (5cm以上の差がある場合に図面修正指示)			
	取付管の延長 図のA (公共樹の中心から本管の管芯までの平面距離)	本検査		
	公共樹の高さ 図のH (流入側の樹の底から公共樹蓋までの高さ)	本検査		
	下流マンホール中心から取付管の取付位置までの距離 図のB	本検査		
	カメラによる確認 (やり直し可能か判断に迷うようなら持ち帰ること)			
	公共樹から水を流した時に、本管まで水がたまることなく流れているか。	下検査	指示	
	自在曲管の使用方法が適正で水の溜りがないか。(逆方向への曲げ、曲げてない施工でないか)	下検査	指示	
	取付管内に汚物が引っかかるようなバリや亀裂がないか。	下検査	指示	
	<b>本管の新設</b>			
	図面数値の確認 (5cm以上の差がある場合に図面修正指示)			
	本管の延長の確認 (マンホール中心間の距離 または マーカーピンとの距離) 別紙参考	本検査		
	カメラによる確認 (原則上流から確認、ケーブル長が足りない場合は下流からも入れる)			
	継手部状態 (差込不足、離脱等がないか)	下検査	指示	
	たわみによる汚水だまりの高さは基準未満であるか。 (5cm以上であれば再施工を指示すること。5cmの目安はカメラ画像の半分が水没した時です。) 下流からカメラを入れた場合は、引きの状態を確認をすること。	下検査	指示	
	管路に異常(亀裂、凹み)は無いか。(確認できた場合は再施工指示)	下検査	指示	
	鏡による確認			
	管路終端部からライトで照らし、管路の蛇行を確認する。目で見えた変形・扁平がないかどうか。	下検査	指示	
	曲りのある本管に対する追加確認			
	曲り箇所にマーカーピンが打たれているかの確認をする	下検査	指示	
	曲り箇所の位置の確認 (= 下流本管からの長さ)			
	マーカーピンが正しい位置にあるかマーカーロケーター (施設課持参) で確認する。	本検査	指示	
	<b>マンホール新設</b>			
	図面数値の確認 (5cm以上の差がある場合に図面修正指示)			
	マンホール内流入側のインバートの管底からマンホール蓋までの高さ	本検査		
	マンホール中心と、動かない境界からの3点間の距離 (平行であれば2点間の距離) 別紙参考	本検査		
目視による確認				
インバートは綺麗に切られており、汚水がスムーズにながれそうか。(主観による)	下検査	指示		
底部・インバートに亀裂は無いか。(幅1mm未満、侵入水がないことを確認。)	下検査	指示		
管口処理は適正に行われているか。(見た目、モルタル剥離が無い、侵入水は無い)	下検査	指示		
マンホールの上部モルタル充填は十分か。	本検査	指示		

